

# 水泳ニツポン・ 中期計画2017-2024

(2024年度 進捗報告)



センターポールに日の丸を!



2025年6月

## 公益財団法人日本水泳連盟

# ■2024年度を終えて

パリオリンピックでは、ここ20年来メダル常勝種目であった競泳、アーティスティックスイミングが苦戦した一方で、競泳18歳の松下知之選手、飛込17歳の玉井陸斗選手と若手選手の台頭があり、飛込が約100年越しで初の五輪メダルを獲得し、強豪中国の牙城を崩す勢いとなりました。水球は決勝リーグにこそ届かなかったものの強豪国に劣らぬ試合内容が多く、世界で戦うチームとしての顕著な実力向上が見られました。そしてセーナ川で開催されたオープンウォータースイミングも、女子10kmでは序盤から上位をキープし、ラスト60mのコース取りで惜しくも入賞は逃したものの、五輪入賞の可能性を大きく躍進させたレースとなりました。全体を通して満足いく結果では無かった一方、各種別の強化事業が着実に成果を結んでいる一面は評価したいと考えます。引き続き、社会情勢や時代の変化に適応しながら、アスリートのサポートならびに水泳界の更なる発展を目指して準備を進めていく所存です。2025年度は、世界水泳選手権シンガポール大会が開催され、2026年には第20回アジア競技大会が愛知県・名古屋市にて開催となります。日本水泳界は『センターポールに日の丸を』のスローガンのもと、一丸となって、世界に挑みます。

本連盟は、2017年に指針として「水泳ニッポン・中期計画2017-2024」を発表しましたが、コロナウィルス感染症のまん延や社会情勢の影響もあり、掲げた目標とは大幅に乖離した厳しい結果となりました。このような状況下、創立100周年を迎えた本連盟にとって世界で活躍する選手を継続して輩出し、「水泳ニッポン」を確固たる地位とし、本連盟が存在感のある競技団体として存続するための重要な転換期と考え、「水泳ニッポン・新時代構想」を新たに策定しました。加盟団体の皆様と本連盟の永年の歩みを次代の礎に「水泳ニッポン」の新たな再出発の礎を築く、絶えざる進化により、さらなる飛躍に向けて全力を尽くしてまいります。「センターポールに日の丸を」という強い決意の下、最後の最後まで選手たちと力を尽くしたい。日本選手の有している潜在能力とチーム力をもってすれば、「水泳ニッポン」の再出発は必ずや成し遂げられると確信しております。新たなステージへの挑戦と日本水泳界の未来に向けて、各加盟団体と情報共有および意思疎通を密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」をより強固なものにしてまいります。

公益財団法人 日本水泳連盟

会長 鈴木 大地

# ■日本水泳連盟創立100周年

## 次の100年に向けて、新ロゴ・ステートメントの発信

2024年に創立100周年を迎えた水泳連盟。当連盟の理念体系に基づく社会的存在意義を、広義のステークホルダーの方々と共有することを目的に、新たなシンボルマークを発表しました。

また、新スローガンと「AQUA CREW」という水泳コミュニティを示す枠組みの発表を旗印に対外的な情報発信の強化と共に水泳ブランドの価値向上に努めて参ります。



# 水泳ニッポン・中期計画2017-2024 要旨



## ①「する」「みる」「ささえる」水泳ファミリーの拡大

- ・日本代表の強化推進による水泳人気の拡大
- ・競技者、指導者、審判、ファン、愛好者の拡大

【ポイント1】  
「第2期スポーツ基本計画」に基づき策定

## ③組織基盤の強化

- ・幅広い分野からの有能な人材の積極的な登用
- ・若手を中心とした人材育成

## センターポールに日の丸を！

競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える。

競泳・飛込  
水球・AS  
OWS・日本泳法

## 国民皆泳

水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と、水難事故防止に貢献する。

【ポイント3】 4戦略+8アクションプランで構成

## ②「泳げない子供・大人」を減らす環境整備

- ・地域内温水プール 拠点化構想の推進
- ・安全をより重視した 学校体育(水泳授業)の充実

【ポイント2】  
「理念」「使命」「行動指針」を明文化

## ④データベースの再構築

- ・登録、エントリー、課金記録管理の改善
- ・2次利用による次世代収益基盤の確立

# ■中期計画策定時の示唆と戦略

## 示唆

日本代表の活躍により、水泳の認知度は確実に拡大。「する、見る、支える」の全体の層を厚くすることが、競技の持続性に不可欠。

少子化、学校体育における非必修化、学校プール施設・公共プール施設の減少のなか、子供や大人が水に触れる機会の創出は重要。

人口減少、日本経済の財政悪化のなか、スポーツ庁・経済産業省がスポーツ産業の推進・活性化を提唱。

情報化社会は、新たなビジネスチャンスを生み出す。現有データの活用用途の多様化は、組織運営の省力化・効率化・高収益化に有効。

中期計画に向けて

## 戦略

### 【戦略2017①】

**日本代表の強化推進による水泳人気、水泳人口の拡大**  
人気・実力・歴史・伝統を兼ねた強みと、国際大会の連続開催でメディアの露出が増える好機を活かし、『水泳ファミリー』を全国的に拡大する。

### 【戦略2017②】

**「泳げない子供」「泳げない大人」を減らす環境整備**  
**地域内温水プール拠点化と学校体育における再必修化**  
スポーツ庁をはじめとする関係省庁、自治体、地域のスイミングクラブと連携して、地域内温水プール拠点化と学校体育における再必修化を推進し命を守る防災スポーツとして「泳げない子供」「泳げない大人」を減らす。

### 【戦略2017③】

**組織基盤の強化**  
**幅広い分野からの人材の登用と育成**  
幅広い分野（経営者、メディア出身者、広告代理店出身者、学者、等）からの有能な人材登用を行ない、組織基盤を強化する。

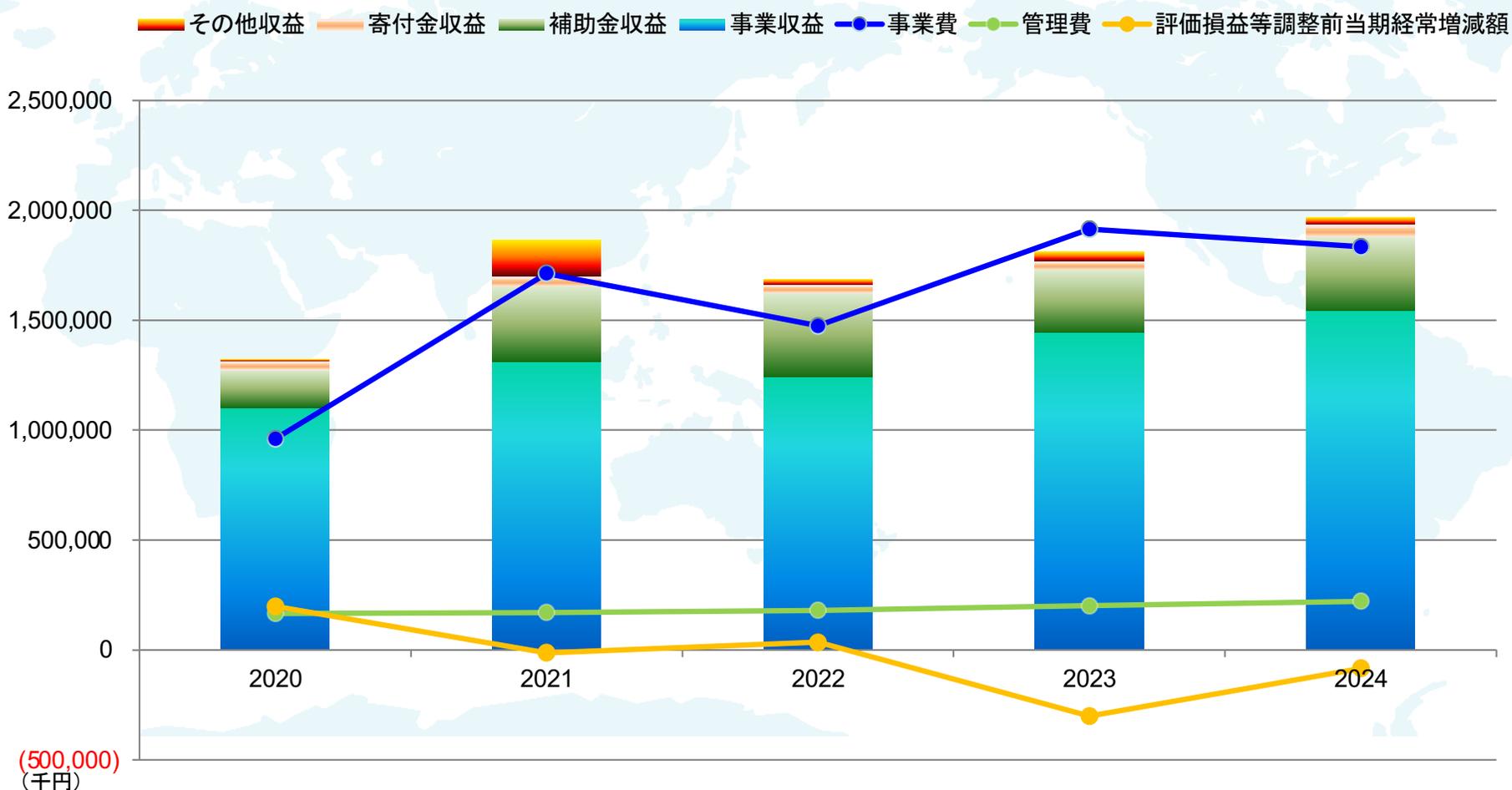
### 【戦略2017④】

**データベースの再構築・再整備**  
**2次利用による次世代の収益基盤へ**  
情報化社会に適応した、強化・競技運営・登録・医科学・広報など多面的に活用可能なデータベースに再構築し、現状の課題解決、競技力向上と普及活動への活用に加え、2次利用による新たな収益基盤としても活用する。

# 財務状況

2024年度財務実績 (単位:百万円)

■ 事業収益	1,543	■ 補助金収益	337	■ 寄付金収益	56	■ その他収益	33	■ 収入合計	1,969
■ 事業費	1,834	■ 管理費	220	■ 支出合計	2,054	■ 評価損益等調整前当期経常増減額	▲85		



# 【1】日本代表強化：①競泳

【戦略2017①】

年度	2024
目標	①金メダルを含む複数メダル獲得(未達) ②入賞率(対種目数)60%以上(未達) ③ベストタイム達成率(対人数、リレー第1泳者含む)35%以上(未達)

2024年度 主要大会	金	銀	銅	総括
パリオリンピック	0	1	0	パリオリンピックでは、松下知之選手が銀メダルを獲得し、入賞率43.33%、ベストタイムを樹立したのは1名1種目のみであった。ブタベスト大会にて短水路日本記録ならびにアジア大陸記録を樹立し、長・短水路併せて1年以上更新のなかった日本記録の更新という結果に、また新たな時代が動き始めたという印象を与えた。
世界選手権 (25m) ブダペスト大会	0	0	1	
ジュニアパンパシフィック選手権	0	0	1	



# 【1】日本代表強化：②飛込

【戦略2017①】

年度

# 2024

目標

①女子3m飛板飛込、男子高飛メダル獲得（一部達成）  
②シンクロナイズド入賞及びメダル争い（未達）

2024年度 主要大会	金	銀	銅	総括
パリオリンピック	0	1	0	パリオリンピックでは玉井陸斗選手が飛込界悲願のメダル獲得した。
フランス Open Diving オリンピックプレ大会	2	0	1	
AQUA2024 ワールドカップ第3戦	0	1	0	次世代の若手選手の強化育成を目的とし、11月にAQUAマレーシアオープンに4名を派遣し、2名が上位入賞を果たした。



# 【1】日本代表強化：③水球

【戦略2017①】

年度	2024
目標	ベスト8進出～メダル獲得(未達)

2024年度 主要大会	順位		総括
	男子	女子	
パリオリンピック	予選 敗退	—	パリオリンピックでは、予選リーグにて競合国競り合うも惜敗が続き、残念ながら決勝進出を逃した。
ワールドカップ Division1・2	6位	優勝	ワールドカップDivision2にて女子が初優勝。
アジア選手権	優勝	2位	アジア選手権で世界水泳025の出場権を男女ともに獲得した。



# 【1】日本代表強化：④AS

【戦略2017①】

年度	2024
目標	メダル獲得(未達)

2024年度 主要大会	金	銀	銅	総括
パリオリンピック	0	0	0	選手の怪我もあり、トレーニングプランの再調整を行わざるを得ず、試合までに仕上げ・泳ぎ込みの時間が十分に取れなかったことが影響し、厳しい結果となった。
世界ジュニア選手権	1	1	1	世界ジュニア選手権での活躍で次世代での存在感を示すことができた。



# 【1】日本代表強化：⑤OWS

【戦略2017①】

年度	2024
目標	男女ともに16位以内 (達成)

2024年度 主要大会	金	銀	銅	総括
パリオリンピック	0	0	0	パリオリンピックでは、女子が13位、男子が15位という結果であった。
世界ジュニア選手権	1	0	0	世界ジュニア選手権大会では、3kmノックアウトスプリントが導入され、日本人男子選手が初代チャンピオンとなった。
全豪選手権大会	1	0	0	



# 【1】日本代表強化：その他

100周年を終え、さらなる成長の第一歩に

東京五輪～パリ五輪まで世界のスイマーとの厳しい戦いを強いられてきた日本水泳界ですが、各競技で次世代を担う10代の有望選手が着実に育ってきています。

2025年を将来有望なネクストブレイク選手が多数台頭し、再び世界のトップに伍する足掛かりの年にします。



**転換期**  
ネクストブレイク選手の台頭と世代交代の加速

**日本水泳「新時代」到来**  
水泳界一丸で新たなステージへ

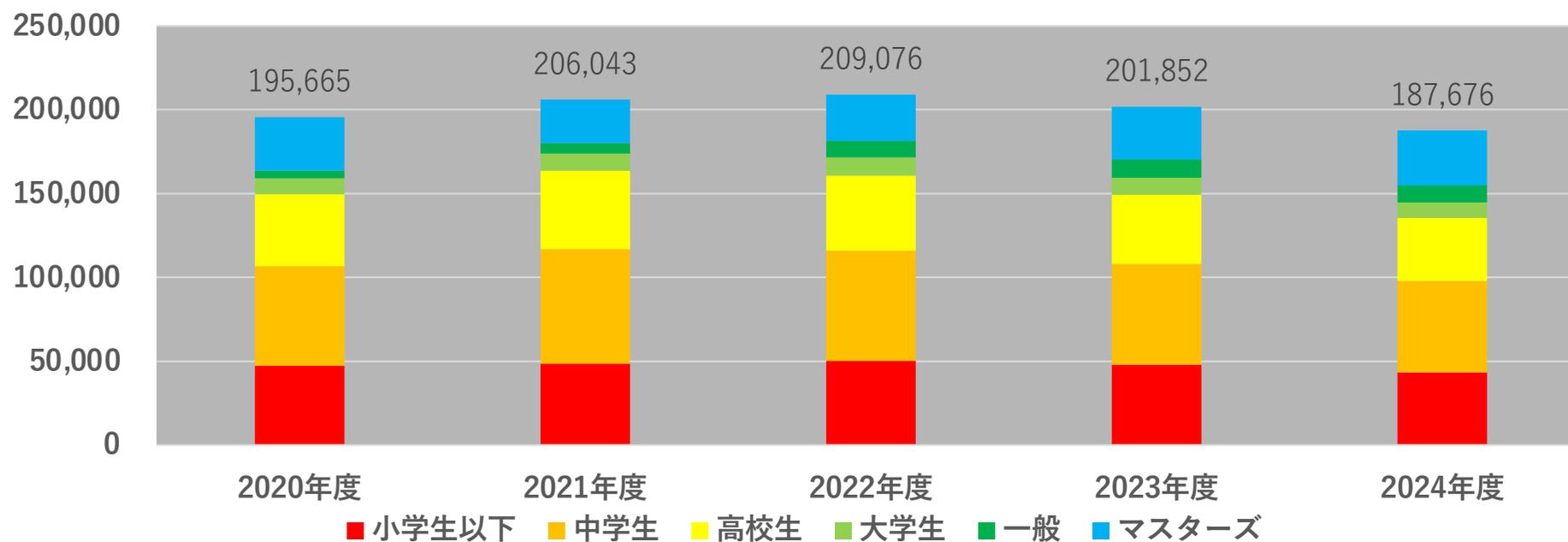
## 【2】競技登録者

より多くの人が水泳に親しむために、「競技者登録数 25万人へ」

【戦略2017①】

【戦略2017②】

年度	2024
目標	競技登録者250,000人 (未達)



# 【3】指導者

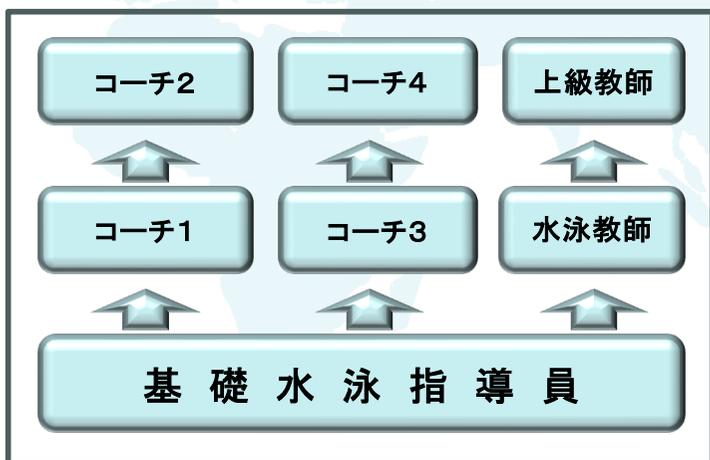
世界屈指の指導者養成体制を堅持・発展させ、水泳日本代表の強化を支えます。  
加盟団体と連携して、全国の「泳げない子供」「泳げない大人」を減らします。

【戦略2017①】

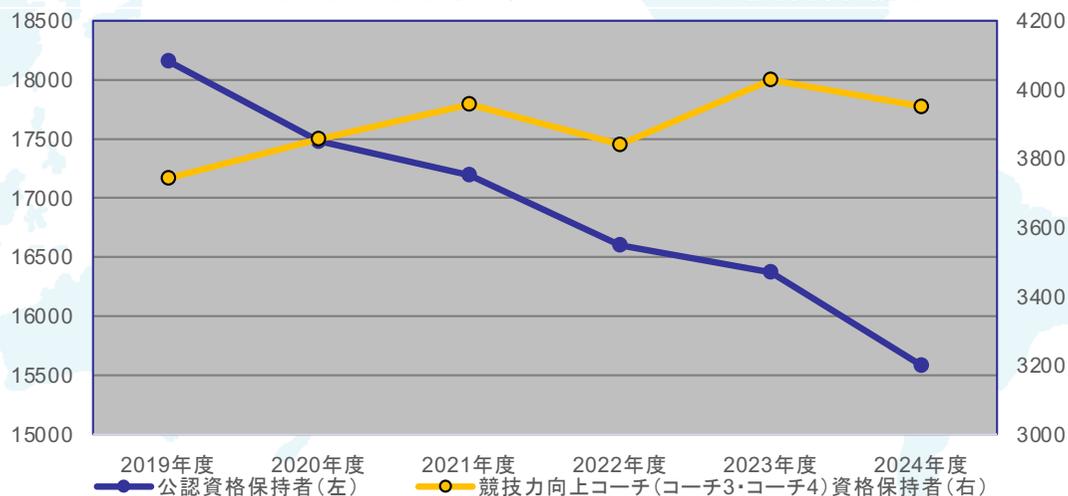
【戦略2017②】

年度	2024
目標	①公認指導者 21,000人(未達) ②世界レベルの指導者の拡充

■公認指導者資格の体系



■公認指導者資格および競技力向上コーチ資格保持者推移



2024年度 公認指導者資格保持者内訳(単位:人)

基礎水泳指導員	コーチ1	コーチ2	コーチ3	コーチ4	水泳教師	上級教師	合計
928	7,334	1,138	3,105	846	1,863	367	15,581

# 【4】審判

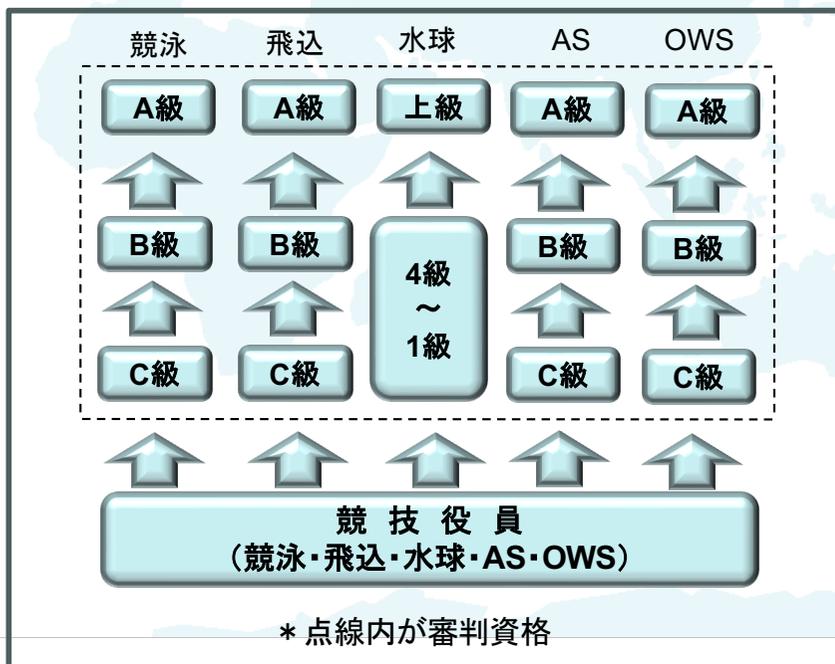
選手の力を引き出す高いレベルの審判員を養成し、全国の競技会をより充実させます。  
国際基準の眼を常に培い、世界トップレベルの審判員を常時養成します。

【戦略2017①】

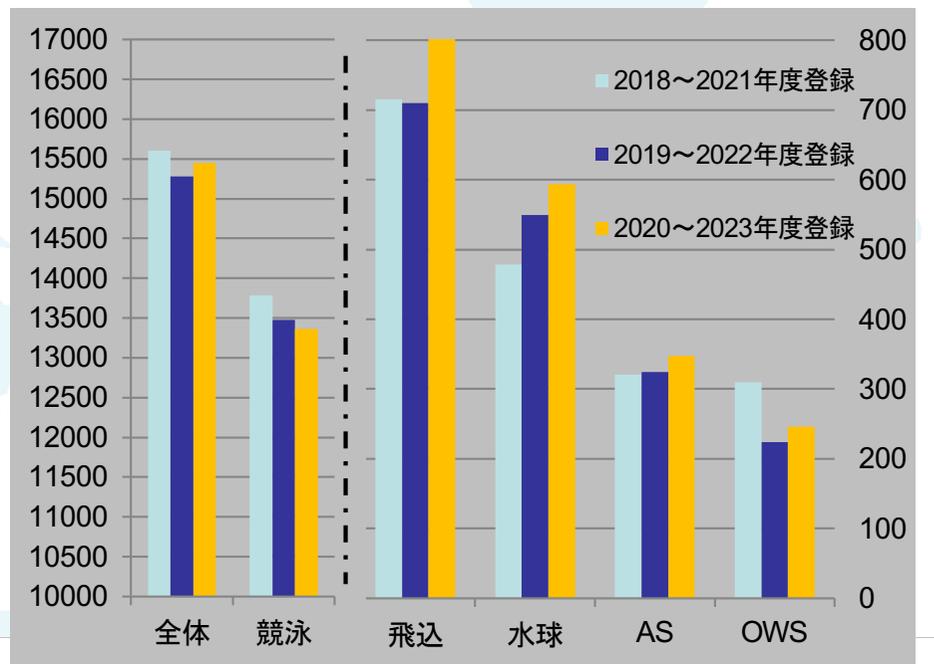
【戦略2017②】

年度	2024
目標	①公認審判員：17000人（未達） ②国際審判員養成の拡充継続

■公認審判員制度の体系



■公認審判員数の推移 ※移行中の為、2023年度実績



(単位:人)

【戦略2017①】

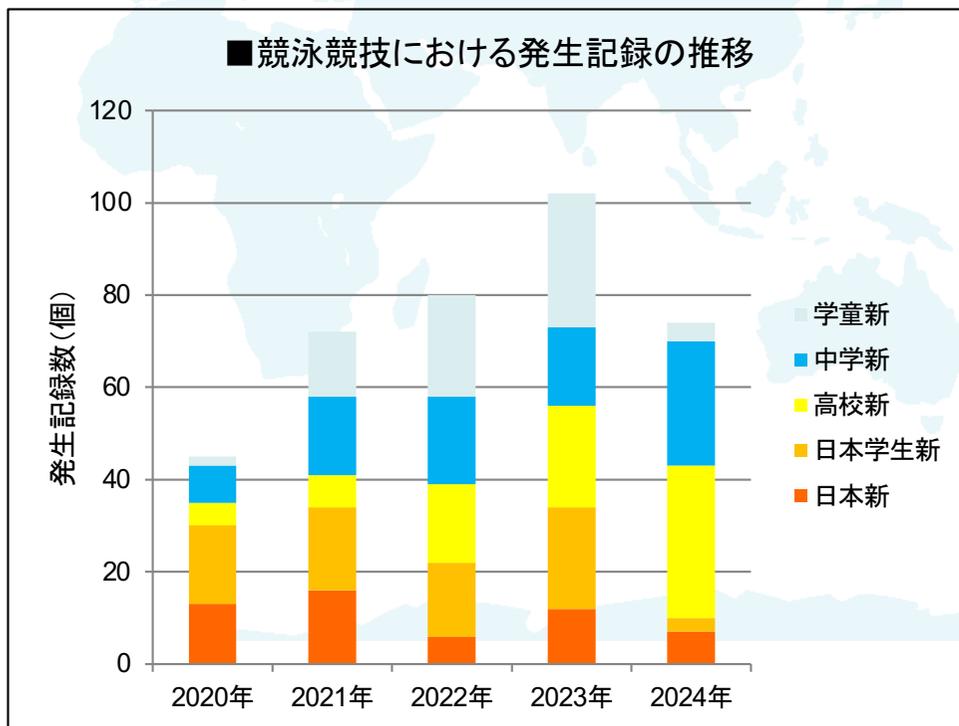
【戦略2017③】

【戦略2017④】

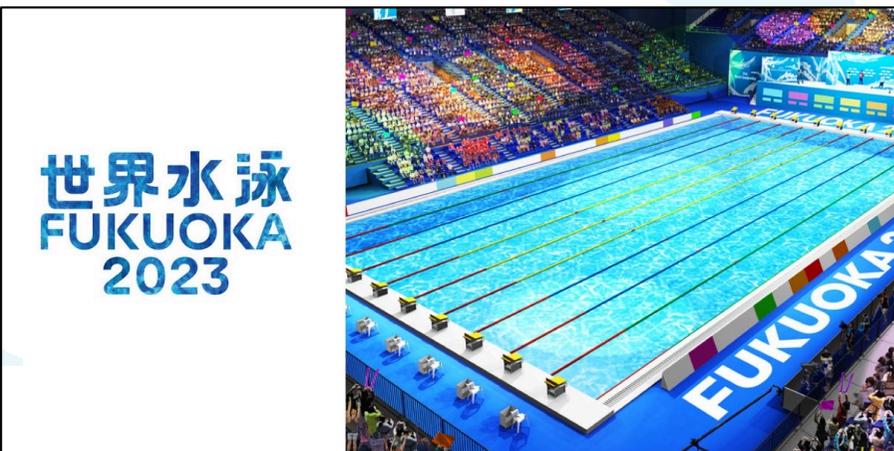
# 【5】競技会

国内競技会は、強化・普及の基盤として、目的・時期・場所を選定して開催します。  
国際競技会は、国際戦略に則り、強化・普及に有効な大会を招致・開催します。

年度	2024
目標	①国内競技会の拡充 ②世界水泳選手権（福岡）を通じた運営能力の向上



世界選手権大会（福岡）において証明した国際基準の高い大会運営を継続するため、実技研修や講習会を活用し、競技規則の改訂についても周知徹底を図り、国際大会代表選手選考会等をはじめ国内競技会において主管団体と連携して全国で統一した高いレベルの競技会を実施した。



【戦略2017①】

【戦略2017③】

【戦略2017④】

# 【6】マーケティング 日本のお家芸・水泳。「水泳ニッポン」の高いブランド力を更に強め、日本水泳界の一層の価値向上と市場の拡大に努めます。

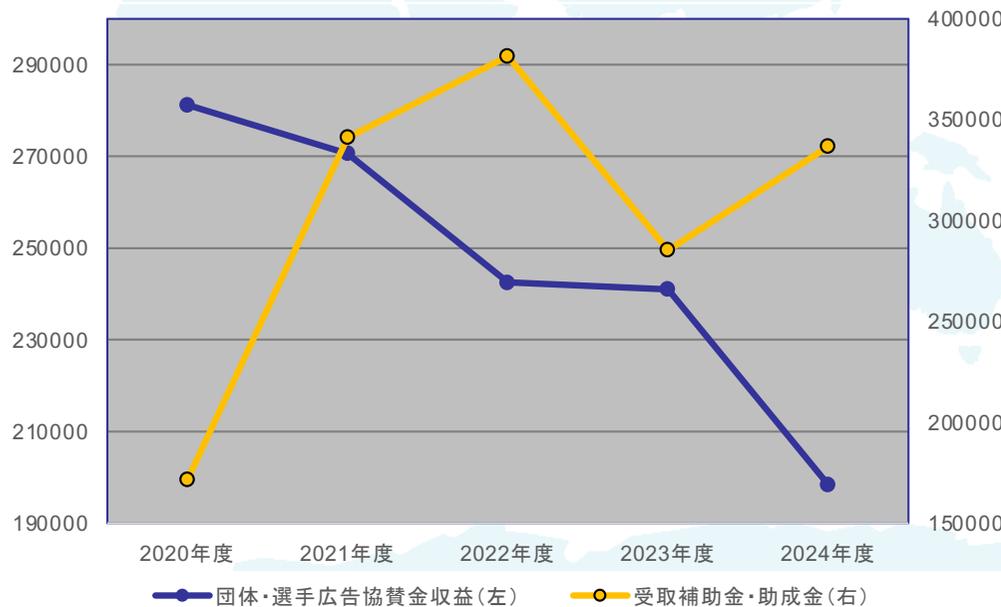
年度

# 2024

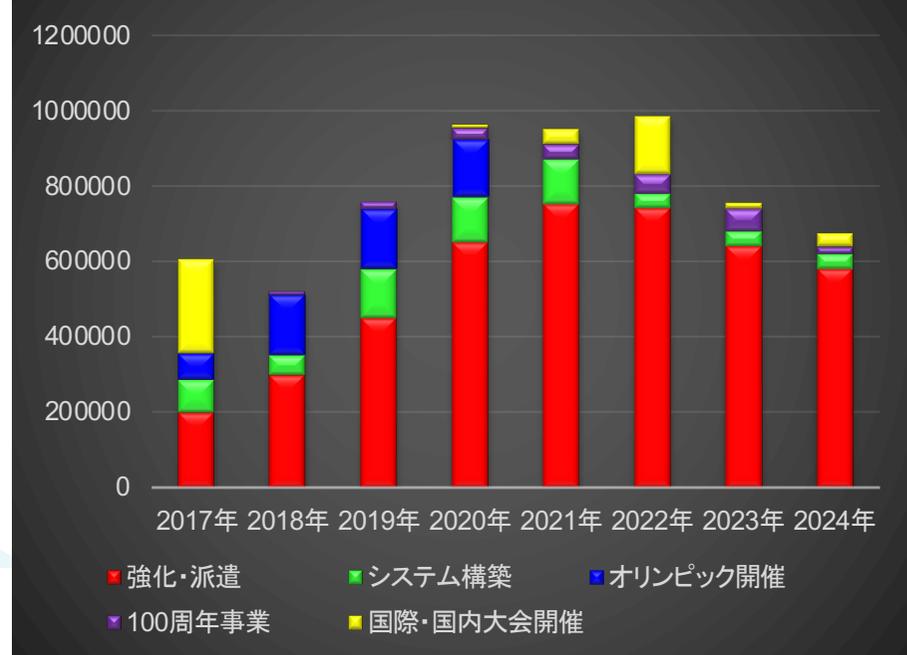
目標

- ①マーケティング事業の強化
- ②ブランディングの更なる強化

■団体・選手広告協賛金および受取補助金・助成金推移



特定費用準備資金・資産取得資金の準備状況



**【7】普及** 多くの人に水泳の楽しさを伝え、生涯、誰もが気軽に親しめる水泳の本質を広めます。  
水泳を通じて全国の「泳げない子供」「泳げない大人」を減らし、国民皆泳を実現します。

【戦略2017①】

【戦略2017②】

年度

2024

目標

- ①国民皆泳の実現
- ②水泳ファミリーの拡大

2024年度の 主な実施事業	総括
水泳の日2024・北海道	広島市のビックウェーブにて久しぶりに観客を入れて開催。2,000名を超えるたくさんの方々の来場により盛況のうちに終了
ニチレイチャレンジ 泳力検定	コロナウィルスの影響も徐々に落ち着き、開催団体も増え、増加傾向 受検者数52,989名(前期比+2,625名) 合格者数41,415名(前期比+5,097名)
日本スポーツマスターズ 長崎大会	38都道府県より参加者648名にて開催。 10年連続出場者9名、20回出場者8名の方々の記念表彰を実施



# 【8】日本泳法

日本古来の水泳文化・歴史・伝統を継承し、その価値を明日へつなぎます。  
日本固有の無形文化として国内外へ強く発信し、保存と普及に努めます。

【戦略2017①】

年度	2024
目標	各流派の保存・普及活動支援・公開演技の披露と国際発信

普及活動用のために作成した日本泳法プロモーションビデオの大阪、関西万博EXPOアリーナ「Matsuri」での上映が決定した。



流派名	発祥地	主な分布地域	発祥年	
神統流	鹿児島	鹿児島	1493年	
小堀流踏水術	熊本	熊本、長崎、京都、東京	1633年	★
山内流	豊後臼杵	臼杵、大分、金沢、富山	1528年	★
主馬神伝流	伊予大洲	大洲、松山	1617年	★
神伝流	松山	津山、東京、広島、岡山、全国	1592年	★
水任流	讃岐高松	高松	1643年	★
岩倉流	和歌山	和歌山	1710年	★
能島流	和歌山	近畿	1669年	
小池流	和歌山	東海、近畿	1619年	
観海流	伊勢	津、伊勢、関西一円	1853年	★
向井流	江戸	東京、会津、北海道	1619年	★
水府流水術	水戸	水戸、東京	1807年	★
水府流太田派	東京	東京、全国	1878年	★

\* 発祥年は、日本水泳連盟「日本泳法概説」による

**【9】組織基盤** 温故知新の精神でこれまでの100年を総括し、これから100年間持続可能な組織基盤を構築します。水泳の統括団体として、高潔・公正・高志を貫きます。

【戦略2017③】

【戦略2017④】

年度	2024
目標	<p>①組織基盤の強化</p> <p>②全加盟団体との理念・使命・行動指針の共有</p>

スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉  
適合性審査 審査結果「適合」 2025年3月24日、JSPO・JOCより通知

審査所見(好事例)

審査項目 1・2・3	充実した内容の中期計画が策定され、年度ごとに進捗報告を作成してウェブサイトで公表するなどの形骸化防止策がとられている。また、策定にあたって幅広く意見を募り、連盟の不変の理念・使命・行動指針を明文化している。また、人材の採用・育成に関しては、組織基盤の強化を目標に掲げ、「内部統制の強化」、「マーケティング事業の組織化」、「データベースの再構築」を施策として計画し、そのために、幅広い分野からの人材登用や若手を中心とした人材計画を計画、公表している。
審査項目39	「危機管理に関するガイドライン」を策定し、危機管理フローやアクションリストを図式化し、視覚的に分かりやすい内容としている。また、別途「水泳日本代表選手団危機管理マニュアル」を策定し、主に事件や災害発生時の安全対策や対応をまとめている。
審査項目42	地方組織の法人化推進のために、法人化が完了した加盟団体に対し(登記手続き等の費用補填として)、一律 100 万円の助成金を交付している。その結果、全加盟団体の法人化が完了している。

# 【10】社会貢献

日本水泳連盟の持続的成長のために、人と社会と共有する価値の構築を目指す。

【戦略2017①】

【戦略2017②】

年度

# 2024

目標

- ①全国各地での防災教育支援
- ②オリンピック等による教育プログラム実践

アスリートの社会貢献活動を推進し、アスリート・スポーツの価値を活用した国内外の社会課題解決、講演・イベント・セミナー等を実施



学校での水泳・着衣泳教室を実施  
「スイムスマイルプロジェクト」



着なくなった水着や衣類のリサイクル・リユース活動  
「WEAR to Fashion」

## Women's Health Project for Japanese Swimmers

女性水泳選手が抱える健康問題に対し、選手・指導者・保護者等を対象に教育・啓発・課題抽出・受診環境整備を行い競技力向上に寄与する目的で活動

「Women's Health Project」

## 【11】その他

すべての人が、「水の国を楽しみ尽くす」ことができる未来が実現するよう、日本水泳連盟は、水泳を「THE BASIC SPORTS」と再定義し、宣言しました。

### 幼少期の「からだづくり」に

- 利き腕に関係ない
- 体幹が強くなる
- 肺機能が強くなる
- 空間認知能力があがる
- 免疫によい、風邪をひきづらくなる

子どもが将来どのスポーツを選ぶとしても役に立つ、

可能性を広げるためのスポーツ

### 中高年の「健康づくり」に

- 水の中では身体を動かしやすいので、身体が完全に機能しづらい人でもできる。
- 水泳を通じ、コミュニティに属することで肉体的フレイルのみならず、「社会的フレイル」の予防につながる。

スポーツの中でトップクラスに万人が長い間続けられる、

究極の生涯スポーツ

日本国内において、最も参加人口が多いスポーツの1つである水泳は  
**すべての人に役に立ち、誰しもにとって基本となるスポーツ**



● センターポールに日の丸を!



公益財団法人日本水泳連盟

水泳 から AQUA へ